



News Letter 2013 No.1

日本観光ホスピタリティ教育学会学会報

通巻 第33号 発行 2013年5月9日

◇学会事務局: 杏林大学外国語学部 古本泰之、野口洋平
〒192-8508 八王子市宮下町 476 杏林大学外国語学部

Tel 042-691-0011 (代表) Fax 042-691-8617 (共用)

email: jimujsthe.org ◇学会 URL : http://jsthe.org

◇編集・発行人: 野口洋平 (noguchi@kyorin-u.net)

【2013 年度総会のご案内】

2013 年度の日本観光ホスピタリティ教育学会総会および講演会等を以下の通り開催いたします。会員の皆様には、ぜひご出席いただきますようご案内申し上げます。また、講演会、シンポジウムおよび懇親会には会員以外の皆様にもご参加いただけます。お誘いあわせの上お越しいただけますことをお待ち申し上げます。

近年、高等学校から大学、あるいは大学卒業後の進路も見据えた高大接続教育が注目されています。総会に続く講演会・シンポジウムでは、高大接続教育の中でもキャリア教育に焦点をあて、接続教育実現にむけて議論する予定です。

基調講演は、キャリア教育を視野に入れた高大接続をすでに実践している松本大学の住吉廣行学長をお招きし、高大接続の実践の様子だけでなく、COC (Center of Community : 地域再生の核となる大学づくり) に関するお取り組みなども含め、先進事例をご紹介します。続いて、シンポジウムでは、観光ホスピタリティ教育における、大学および高等学校等の接続教育の実践事例を挙げ課題の整理を試みます。

1. 開催日 : 2013 年 6 月 8 日 (土) 13 : 30~17:50
※終了後懇親会

2. 会場 : 立教大学新座キャンパス
〒352-8558 埼玉県新座市北野 1-2-26

3. 日程

11:00~13:00 理事会・評議員会 (5 号館 6D 会議室)

13:00~ 受付 (7 号館 3 階アカデミックホール前)

13:30~13:35 開会式 (アカデミックホール)

13:35~14:15 総会 (〃)

14:30~15:30 講演会 (〃)

「高大連携から高大接続へ

～キャリア教育をめぐる～

講師 : 松本大学 学長 住吉廣行氏

15:45~17:45 シンポジウム (〃)

「キャリア教育における高大接続」

モデレータ 古本泰之氏 (杏林大学)

パネリスト 人選中

17:45~17:50 閉会式 (〃)

18:00~ 懇親会 (学生食堂こかげ 4 号館 1 階)

※ 上記プログラムは一部変更する場合がありますので、ご了承下さい。

4. 参加費・懇親会費

<参加費>

会員・準会員・一般・学生ともに無料

※ 総会を除くすべてのプログラムに会員外の皆様もご参加いただけます (要事前申込み、懇親会有料)。

<懇親会費>

会員・一般 : 4,000 円 準会員・一般学生 : 3,000 円

※ 大会当日に受付でお支払い下さい。

5. 参加申込書・委任状の手続き

同封のはがきに、総会・講演会の出欠等、必要事項をご記入の上、郵送して下さい。

なお、会員外で参加を希望される方は、ご所属、氏名、ご連絡先、参加希望プログラムを明記の上、学会事務局までお知らせください。折り返しご連絡いたします。

参加申込・委任状締切 (必着) : 2013 年 5 月 31 日 (金)

【理事会報告】

<2012 年度 第 6 回定例理事会>

日時 : 2013 年 3 月 2 日 (土) 10 : 30~11 : 30

場所 : 立教大学新座キャンパス 8 号館 N841 教室

参加者 : 村上会長、小畑副会長、益山副会長、浅岡理事、海老澤理事、小槻理事、館野理事、丹治理事、中村理事、古本理事、吉田理事、宍戸監事、安島監事、野口幹事、鈴木幹事 以上 15 名 (委任状 0 通)

1. 退会審査

● 退会希望者 (正会員) 1 名を承認しました。

池之上美奈緒 (淑徳大学)

(現会員数 : 160 名 (正会員 148 名、準会員 9 名、特別会員 1 団体、名誉会員 2 名))

● 事務局古本理事より、年会費長期未納者の退会について報告されました。

2. 第12回全国大会について
- 第12回全国大会の準備状況について確認されました。また立教大学より学会開催に伴う補助金が支給されたことが報告されました。
 - 大会の運営補助スタッフについて、今後は一定の条件でアルバイト雇用することとなりました。
3. 2013年度総会について
- 2013年総会について協議が行われました。
日程：2013年6月8日（土）
場所：立教大学新座キャンパス（仮）
テーマ案については、「キャリア教育における高大接続（仮）」とし、詳細は理事会のメーリングリストなどで検討することとなりました。
4. 編集委員会報告
- 機関誌第7号編集の進捗状況及び編集委員会の活動状況について報告が行われました。
 - 今後、献本がない書籍を書評する際は、学会予算から購入費を支出することが了承されました。
5. その他
- 全国大会についてより多くの参加者を募るため、次年度の開催時期について会員の意見を参考に検討することが提案されました。
 - 学会時などでの資料配布用に学会ロゴ入りの袋類を製作する提案があり、事務局で対応することとなりました。費用は学会の本会計から支出します。
 - 次回の理事会を2013年5月11日（土）、追手門大学梅田サテライトで開催することとなりました。
 - 役員が所属する教育機関等で全国大会や総会を実施可能な場合、施設使用の費用や手続き等について確認するよう依頼がありました。

<2013年度 第1回定例理事会>

日時：2013年5月11日（土）13:00～15:00

場所：追手門学院大学 大阪梅田サテライト

参加者：村上会長、小畑副会長、益山副会長、浅岡理事、海老澤理事、小槻理事、館野理事、丹治理事、中村理事、古本理事、吉田理事、宍戸監事、野口幹事、鈴木幹事
以上14名（委任状4通）

1. 第12回全国大会の評価と反省

- 丹治理事より、2013年3月2日、3日に開催された第12回全国大会の報告（決算報告も含む）が行われました。全国大会の出席者数は、正会員53名、一般6名、ゲスト2名の計61名でした。（なお、パンフレット等展示にご協力いただきました皆様に、この場をお借りしてお礼申し上げます。）

2. 2013年度総会・講演会について

- 丹治理事より2013年度総会・講演会の企画案について説明がありました。

- 次回理事会（総会時）に評議員会を実施することになりました。
 - シンポジウムについて、テーマの概要について丹治理事より説明がなされました。
 - シンポジウムのモデレータやパネリストの候補について検討されました。
 - 古本理事より総会の議題および2012年度決算・事業報告、2013年度予算・事業計画について提案がなされました。
 - 学会則、編集委員会規定等について、理事会 ML で修正ポイントについて確認することになりました。
 - 業務の効率化および学会としての生産価値の向上を目指して、今後どのような取り組みが可能かを理事会 ML 上で検討して提案することになりました。
3. 入退会審査
- 入退会審査について確認され認められました。
- 入会：いずれも正会員
手塚知代美（東京商科・法科学院専門学校）、山本健神
戸夙川学院大学、渡邊康洋（桜美林大学）（以上3名）
- 退会：
田代明彦、杉浦利成、秋山綾、松本和幸、松原洋宗、石原隆司、Herbert Donovan、森重喜三雄、小沢健市、徳田行延、本間理絵（以上11名）
（現会員数：152名（正会員140名、準会員9名、特別会員1団体、名誉会員2名））
4. 編集委員会報告
- 資料に基づき機関誌7号および8号の編集の状況が報告されました。
5. 今後の研究会テーマ
- 研究会テーマについて意見交換がなされました。

6. その他

- 第13回全国大会は、中村学園大学、長崎国際大学、長崎外国語大学をホスト校として、中村学園大学（福岡県福岡市）にて3月1日（土）、2日（日）に開催することが決まりました。これは、4月に実施した全国大会実施時期に関するアンケート結果に基づくものです。（アンケートは第12回全国大会出欠はがきにご記入いただいたメールアドレス宛てに送信したものです。ご協力各位に感謝申し上げます。）
- 事務局業務の外注の件について、引き続き総務委員会で検討することになりました。

次回の理事会は、2013年6月8日（土）立教大学新座キャンパス5号館6階6D会議室にて開催します。

【研究会報告】

2013年5月11日(土)、追手門学院大学大阪梅田サテライト会議室にて、「自発的学びを促すアクセシブル・クトウの実践例」と題して今年度第1回の研究会が開催されました。参加者数は満席の20名でした。

講師には、FDに関する講演を全国で行っている佐藤龍子氏(静岡大学学長補佐(FD・SD・広報担当))を招き、ご自身の講義での実体験や先進事例および先行研究をふまえて様々な角度から事例や考え方を紹介していただきました。

アクティブラーニングなどを実践して主体的な学びを提供しようとするときには、カリキュラムそのものの見直しなども必要となってきます。一度にすべてをかえることは難しいですが、できることから取り組まなければならないということを確認できました。

また、アクティブラーニング導入は教員の負担が増えると思われるがちですが、それと平行して効率化へのアプローチも不可欠です。静岡大学ではFD活動が盛んであり、きちんと内容を共有できるようにおよそ10巻ものDVDが開発されています。会場からは羨望のため息がもれてきました。

自発的な学びを実現するためには、教員の側からの仕掛けが必要であり、能力のある学生を伸ばし、他方でやる気のない学生を退学に追い込まないようなテクニックも忘れてはなりません。

終了後、ほとんどの参加者が急遽設定された懇親会に出席し、夜遅くまで情報交換が続けられました。

今回の研究会は11月に予定されております。詳細が決まり次第、ウェブサイトにて情報を掲載し、ご案内を送付いたします。

【観光学・観光教育に関する動向】

◇学生による地域グルメ情報紙制作

情報提供：川村学園女子大学 丹治朋子

本学では、キャンパスがある千葉県我孫子市の行政や各種団体と連携し、市内に学生の活動の場や、学びを実践し確認する場を求めています。それと同時に微力ながらも地域に貢献したいと考えています。

これまでにも、我孫子市商工会の会合に学生が複数回にわたって出席して意見を述べたり(2008年度)、我孫子駅前イルミネーションのリニューアルにあたり、100万円を超える予算でイルミネーションや駅舎を含む周辺の装飾、点灯式イベントの運営などに主体的に携わる機会を得るなどしてきました(2011年度)。これらはサー

ビスラーニングに関する取り組みともいえます。

しかし、実際に活動に参加できる学生は3年生が多く、就職活動や卒業などによって学生が主体的に取り組むを継続するのはなかなか難しい状況にあります。

そのような中で、学生団体(サークル)のツーリズム&ホスピタリティ研究会では構想段階を含めると4年以上継続中の取り組みを行っています。それは『あびっば』という地域のグルメ情報紙の制作です。

JR常磐線の我孫子駅前に我孫子インフォメーションセンター(愛称アビシルベ)を開設するにあたり、我孫子市からグルメ情報媒体作成を打診されたのがきっかけでした。2009年から調査を始め、市の職員や大学の学生および教職員にアンケートを実施し、名前の挙がったレストラン等に協力を依頼して賛同を得られた33店舗を対象に、店舗の基本情報やメニュー、価格、利用者のクチコミコメントなどを掲載しているものです。アビシルベ開設の2010年より、A4サイズの用紙両面刷りで毎月3店舗を紹介しております。レイアウト、イラストや利用者コメントなど一部の文字は学生の手書きにしたことで、良く言えば「ぬくもりのある」、悪く言えば「つつこみどころのある」紙面が完成しました。欄外では囲み記事として「ちょこっと観光学」という小さなコーナーを設け、観光学の広がりを知ってもらえるような記事を担当教員が執筆しました。

こうして約2年以上にわたって全12号を刊行し、アビシルベにて配布して参りました。手書きの制作物がかえって目新しく、人気コンテンツだと評価していただいたこともございます。

ここまでを担当した学生は今年の3月に卒業したのですが、サークルの後輩が後を引き継ぎ、今年度いっぱいかけて既刊分についてバリエーション情報を追加するという、リニューアル作業を開始しております。

この事業を行うきっかけとなったのは、地域の障害者団体代表からの申し出でした。「障害者にとって何よりのリハビリが、少しでも外出することであり、そのためにはこの情報紙に限らず、いろんな場面で情報が不十分だと感じている」というものでした。そこで、私どもは地域の障害者福祉センターにて通所者の個別インタビューを実施し、障害者が感じる不便さを整理したり、アビシルベの案内窓口で問い合わせの多い項目などを聴取した上で、更新作業進めております。学生にとって大変貴重な機会であるとともに、社会に少しでもお役に立てれば幸いです。

また、この事業にあたっては学内の社会教育学科に在籍する教員から特別講義や助言を受けるなど学内連携もあわせて行われています。

【第12回全国大会に寄せて】

立教大学学生団体 トランジット 代表
観光学部交流文化学科3年
小林 瑞季

この度は第12回 JSTHE 全国大会に運営ボランティアという形で参加させていただき、ありがとうございました。私たち、「立教大学 トランジット」は観光学部生が学会というさまざまな人と交流できる場を利用して、観光の学生同士、学生と先生、学生と社会人とのネットワークを作ることを目的としています。

今回の学会で、分科会や懇親会で熱く議論をする先生方を見て、普段教壇では見られることのできない一面を垣間見ることができ、先生方の観光に対する情熱をひしひしと感じ、またそれと同時に、私たち学生の立場としてはとても身の引き締まる思いでした。

観光という現象を学問として捉えた時、その捉え方は各人で異なると思いますが、私は観光学とは社会学や地理学、文化人類学、経済学、経営学など様々な学問と関わり合う学際的な学問であり、今日までのニューツーリズムの勃興といったように、日々移りゆく観光産業は研究対象に尽きることはなく、良くも悪くも情勢に左右されやすい現象だからこそ、観光学を学ぶ者は時代の流れに敏感であることが重要であるように思います。

そのような中、今回の学会で、観光・ホスピタリティ研究の最先端に触れることができたのは、大変貴重な機会でした。

また、川村学園女子大学、杏林大学、国士舘大学の観光を学ぶ学生と積極的に意見交換をし、交流を深めることができたことも、大変貴重な機会であったように思います。

最後になりましたが、今回このような機会を与えて下さり本当にありがとうございました。

【書籍紹介】

近藤隆雄著

『サービス・イノベーションの理論と方法』

(生産性出版、2012年、350p)

ISBN-13: 978-4820120032 定価: 2,800円+税

同書は、近藤氏による『サービスマネジメント入門』『サービスマーケティング』に続くサービス研究における理論書および教科書である。

サービス分野のイノベーションやオープン化という注目のテーマについて、国内外の先行研究の整理を踏まえて示された理論と、さまざまな事例を通じた理論の説明と実践についても丁寧に触れられている。

ヘンリー・チェスブロウ著

博報堂大学ヒューマンセンタード・オープンイノベーションラボ、TBWA HAKUHODO 監修・監訳

『オープン・サービス・イノベーション

—生活者視点から、成長と競争力のあるビジネス

を創造する—』

(阪急コミュニケーションズ、2012年、304p)

ISBN-13: 978-4484121130 定価: 2,200円+税

本書は、「オープン・イノベーション」の分野における第一人者のひとりであるヘンリー・チェスブロウ氏によるもので、博報堂グループが監修・監訳した。

オープン・イノベーションによる顧客との共創を中心に理論とさまざまな事例が示されていて、ビジネスにおいて製品中心からサービスを中心にするイノベーションへ転換することが強調されている。

【編集人より】

会報では、会員の皆様から提供された観光ホスピタリティ教育の情報及び書籍紹介を掲載しております。書籍紹介は、原則として本学会会員が執筆した発行から2年以内の書籍（定期刊行物を除く）を扱います。ぜひ、情報を編集人までお寄せ下さい。

ご協力をお願い申し上げます。

編集・発行人 野口洋平（杏林大学）

E-Mail : noguchi@kyorin-u.net

FAX : 042-691-8617（大学共用）